

6. 事業内容	第3期に契約している事業内容は以下の通り。 3年目： （ア）職業訓練の提供及び職業訓練指導者の養成 ＊園芸・造園プログラムを通じた技能訓練研修（上級） 対象者：2年目の中級講座を終えた各15名の研修生 1. 園芸・造園を通じた技能訓練 1－1 日本人専門家①（造園、植木）による短期集中研修（上級） （7日間×2回）（造園専門家）於：ピエンサイ借り上げ畑及び広場にて ＊カyson広場公園造園の上級講座 ラオス日本外交樹立60周年記念に植樹された桜の木のメンテナンスも含むカyson広場における造園技術のデザインとメンテナンス技能習得（上級） 1－2 日本人専門家②（園芸療法、実利園芸技能）による短期集中上級研修（10日間×2回）於：当会ワークショップ及び借り上げ畑 ＊ビジネス技能研修（レストランやホテルへのパッケージ販売） 障害者の収入向上につながる有望な植物、苗木を種類別に、たね木の入手方法と繁殖法、栽培と管理、商品としての仕立て方、売る時期と価格の目安、荷造りなど1年目と2年目で学んだことを基本に実際にセールスを行う研修 ＊最新の繁殖技術の習得 自分で増やした植物を仕立てて販売する能力を磨く（上級） ＊苗木のメンテナンス 顧客に求められるような育成方法の習得 1－3 OJT訓練期間（当会ワークショップ及び借り上げ畑） （日本人専門家による集中研修以外の通常研修期間） ＊当会プロジェクトコーディネーターによる指導及び日々の苗木の世話やビジネスの視点から商品としての苗木、植物の育成及び販売について学ぶ（上級） ＊ADDP仮想園芸ショップの開店 苗木ショップの開店（苗木育成－販売までのフローをOJTで学ぶ） ＊製菓プログラム 対象者：2年目の中級講座を修了した10名の研修生
---------	--

	2. 製菓プログラム上級研修（通年） 2-1 日本人専門家による短期集中フォローアップ研修（7日間×2回） *技能訓練（上級）及び日本に学ぶクッキー、パン、ケーキ新規レシピ及び在庫管理、新規販路積極開拓の方法） 2-2 ラオス人指導員による短期集中研修（7日間×2回） *レシピの反復練習、パッケージング、宣伝パンフレット、マーケティング初級講座、企業、レストラン、ミニマートへのセールス開始 2-3 ビジネス経営トレーニング（OJT） 事業の完全自立のための基礎経営学である人件費管理、販売や製品管理、収支バランスの分析、顧客管理や顧客開拓等、事業を回すための基礎ノウハウの総点検。コストの計算、人件費の割り当て等。問題解決トレーニング実施。 ビジネストレーニングを導入。 指導員候補生のフォローアップについては、随時 OJT で行うこととし、最終的には指導者候補生が日々の OJT で新規研修生にも指導を行い、その指導方法などの改善点を日本人専門家やプロジェクトマネージャーからフィードバックをもらう形で技能を向上させる。先行案件で育成された技能指導員がビエンチャンの ADDP クッキー工房には多数おり、すでに養成された首都ビエンチャン在住のラオス人製菓技能指導者と連携しながら、事業語もフアパン製菓チームは問題なく技能を驗算することができるシステムを構築している。 *美容訓練 対象者：中級講座を修了した 10 名の研修生 3. 美容上級研修（通年） 3-1 日本人美容専門家による短期集中フォローアップ研修（7日間×2回） 3-2 OJT 訓練期間（通年） 当会現地スタッフによる衛生研修、シャンプー研修、反復基礎研修の実施。OJT による近隣住民へのサービスと広報を兼ねた仮想美容院の開業（継続） *技能訓練（上級）と顧客管理、衛生管理、顧客開拓、ビジネス管理等ビジネス管理も併せ学ぶ。リピーター顧客への定着サービス法等 （イ）障害者就労促進セミナーの実施（年1回） フアパン県各主要の地域において政府関係者、民間企業、教育関係者など
--	--

	50名を対象に障害者の就労促進と障害者のエンパワメントについて3年間の成果発表会セミナーを実施（サムヌア） （ウ）北部近隣県への障害者就労事情調査（年2回） 年に2度、北部近隣県（シェンクワン、ルアンパバン等）への障害者事業調査及びビジネス拡大のためのマーケティング調査の実施 また、本提案事業は「持続可能な開発目標（SDGs）」の目標1「あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる」及び目標8「包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する」に該当する。目標1、目標8の以下の細分化の項目に該当する妥当性の高い事業である。 1.1 2030年までに、現在1日1.25ドル未満で生活する人々と定義されている極度の貧困をあらゆる場所で終わらせる。 8.5 2030年までに、若者や障害者を含むすべての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、ならびに同一労働同一賃金を達成する。 8.6 2020年までに、就労、就学及び職業訓練のいずれも行っていない若者の割合を大幅に減らす。 本事業は、障害者の就労機会を促進し、職業訓練を経て、あらゆる機会から取り残されがちな最貧困層に属する障害者を社会自立に導くことを目標にしている。 尚、この事業における想定裨益者数は以下の通り。 直接裨益者数（3年間）：障害当事者50名、障害者家族70名、ピエンサイ村民200人、ラオス障害者協会フアパン支部5名、フアパン県スタッフ15名のほかに、ピエンチャン労働社会福祉省担当部署（The National Committee for People with Disability and Elderly）15名、フアパン労働社会福祉省担当支部スタッフ5名、フアパン県の商店、企業関係者30名、UXOラオス・フアパン事務所スタッフ6名、合計数396名。
--	---

7. これまでの成果、課題・問題点、対応策など	①これまでの事業における成果（実施した事業内容とその具体的成果） ・各研修で研修希望者の参加は有るものの、ビエンサイと言う地方の村での生活への不安などもあり、家族の都合等で引き続きワークショップにて滞在を伴う OJT を継続希望する新たな研修生の実際の滞在型の人数の増加は推移していないが、研修への興味の問い合わせは北部全体で倍増している。（2017 年 4 月現在 112 件の電話・FACEBOOK 問い合わせ、仲介による事業への関心、興味が寄せられている）。1 年半プロジェクトが進み、当会の事業が浸透してきており、また第 2 期の残りの期間は引き続き OJT 研修生増加を今年度の重点課題とし取り組む。 ・造園研修は現在主に公園の苗木の初期管理で OJT を継続実施している。昨年に続き桜の成長は早く、2017 年 1 月に 1 本の苗木に花が咲き苗木を育てる喜びがより増している。園芸・造園に関わる障害当事者の中では、草花、植木、公園メンテナンスに取り組み過程で、自信も醸成され、社会自立に前向きな姿勢が生まれており、障害者の研修生同士の連帯も強く生まれている。 ・園芸研修は主にワークショップ用花壇へ花を植え、育った花を植え替えてガーデニング手法を日々 OJT で研究している。 ・製菓研修は現在 6 種類のクッキーを製造販売しているが、カウンターパート側であるフアパン県よりフアパン県オリジナルの製菓開発を要望されているため研修生達は新商品開発の方法を自ら考え実施する事を OJT の中で学んでいる。 ・美容研修は主に洗髪、ブローサービスの提供をし、日々洗髪技術向上のための OJT を実施している。 ・UXO ラオスのフアパン支部と緊密に連絡を取り、不発弾被害者の社会自立のための就労支援として当会への研修事業を高く評価、被害者の情報などを提供してもらい、アウトリーチを行うことでさらに多くのフアパン県障害当事者へ支援が届くような協力体制が構築された。 ・HI ハンディキャップインターナショナルが UXO 支援を北部で開始するための案件形成調査があり、HI 不発弾クリアランスチームが当会事務所を訪問した。不発弾被害で障害者になってしまった人々への職業訓練や就労支援の現状を調査を目的としており、当会はビエンサイで唯一の長期で活動をする国際 NGO であり、リソース、ネットワークも事業開始からビエンサイ郡、フアパン県の行政と密接に関わることで良い関係を構築していることから、障害者就労支援・職業訓練に関しては当会 ADDP と裨益者情報の提供などの国際 NGO 同士のネットワーク協働の要請があった。これ
--------------------------------	---

	からも他国の NGO との情報共有を行いより多くの裨益者にアクセスできるように工夫していきたい。 ③上記②に対する今後の対応策 フアパン県は UXO 不発弾などの犠牲者である障害者人口が多いことから、障害者の社会自立支援のニーズは高い。しかし地理的な問題、あるいは親や障害当事者本人のエンパワメントや社会自立への意識がまだまだ低いことや障害者が家族にいることを家族自身が隠してしまうなど、なかなか障害者の実態がつかみにくい現状がある。しかし、当会のリソースのみではなく、村、UXO ラオス事務所や他国の欧米 NGO で UXO 関係のプロジェクトを長く行っている HI（ハンディキャップインターナショナル）など他団体と緊密に連携することで、当会の事業にまだつながっていない潜在的な技能訓練候補者でニーズのある障害者にアクセスできる。特に北部のフアパン県で横の連帯が必要となっている。まだまだ多くの障害者に当会の事業が周知されていないと思われるので、他団体と連携しつつ、引き続きあらゆる広報手段を試し、ラジオ放送やパンフレット、インターネットや SMS などを通じて障害当事者で技能を修得したい障害者の研修候補生を増やしていきたい。 ④「持続可能な開発目標（SDGs）」の該当目標の視点 当会の事業はラオスの北部フアパン県におけるラオスの中でも山岳地で最も脆弱な立場の障害当事者に向けた職業訓練を提供する事業であり、裨益者は障害当事者であるために、「持続可能な開発目標（SDGs）」の該当目標 8 にもある「障害者を含むすべての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、ならびに同一労働同一賃金を達成する」という目標に直接に貢献できる事業であり、社会的弱者であり、健常者に比べ就労機会に制限のある地方に在住するより多くの障害者が生産的な雇用と働きがいを見出すために本事業が 3 種の職業訓練の形態を通じて、障害者の裨益者にしっかりと「働く喜び」を提供できると確信している。
8. 期待される成果と成果を測る指標	（成果ア）60名の研修生及び10名の技能訓練指導員候補生に技能がしっかりと移譲され、就労・起業ロールモデルが生まれる。 （但し、体調を壊したり、家族の事情で続けられない研修生がいるため、40名を効果測定対象者として想定し、80%の定着を目標とする） 成果①フアパン県の若い障害者が、技能訓練を経て、就労・起業機会を得

て、社会的・経済的自立を得ることができるようになるために、障害当事者の就労ロールモデルが生まれる。また育成された技能訓練各指導員は、OJTで実際に新規研修生に質の高い技術指導を行うことが出来るようになる。

（成果を計る指標ア）

- ① 今年次は60名の研修生に中級以上の修了証明書の発行。及び技能訓練指導員候補生の指導者としての技能習得調査を行い、指導員候補生全員の指導技能力（指導法が分かりやすいか、障害に配慮しているか等総合的指導力）を研修生にアンケート調査を行い100点満点で80点以上の評価を得る。

（確認方法ア）

- ① 新規研修性への年3回のアンケート調査及び日本人専門家による技能評価判定の実施
- ② 活動記録及びデータにて確認

（成果イ）顧客及びサポート企業数が増加する。

当会のワークショップはOJT形式で実際に顧客に対しサービスや商品売ることを同時に学ぶ研修スタイルである。事業の持続性を担保するためにも近隣の村民の顧客数、及び当事業を支援するラオス内外のCSR促進企業や商店が増え、サポート企業がラオス北部地方で5社程度になる。企業が顧客として当事業で生産された商品やサービス等を購買または連携し支援が継続される。

（成果を計る指標イ）

- ① 園芸・造園を通じた就労支援部門

想定顧客目標（第3期）：

販売苗木数 100 本、ビジネス受注数 10 件及び一般のラオス人顧客数 30 人（前年比 50%増）

- ② 製菓プログラム部門

（クッキー販売パッケージ数 3,000 PACKAGE）前年比 60%増

想定顧客：フアパン県並びに近隣県（ラオス北部）

ラオス企業数 10 社確保（各企業等により平均最低 3 万円程度の売上/月）提携中小ミニマート数、観光業ホテル及びレストラン数（前年比 50%増）

- ③ 美容部門

（美容院、カット、カラー、ブロー、シャンプー等）

想定顧客；近隣一般のラオス人、在留外国人、年間の顧客延べ数 100 名

	(前年比 25%増+) (確認方法イ) 商店に向けた満足度アンケート等の実施(年4回。8割の満足度目指す) / 新規顧客増加実績表の確認(通年)、継続支援企業からのアンケート調査(四半期に1度) (想定データは第2期の実績(予定)を基に計算) 事業終了後の事業運営について、当会が自己資金で引き続きできる限り支援を継続し、またすでに終了し、ビエンチャンで自主運営されているクッキー工房や ADDP 美容院と連携しながら、フアパン県における障害者の働く場のサポートを引き続き行っていく。
--	--